



近代製糸業の先覚者 **山田 脩** (1841~1921)

霞ヶ城公園内・三ノ丸跡地(菊人形会場)に市街地を見守るかのように立つ銅像は、わが国最初の民間器械製糸工場の創始者・山田脩翁です。

翁は天保12年(1841年)4月26日、藩士・梅原直次郎の二男として出生。のち藩士・山田友松の養子に迎えられています。

戊辰戦争後、志を海運業に求め、のちの三菱財閥創始者である岩崎弥太郎に相談を持ちかけたところ、岩崎は“君の故郷には蚕糸という天賦の業がある。この事業こそ君の為すべきもので、天命ではないか。”と進言しました。この言葉で翁は開眼され、郷里の蚕糸業発展への尽力を決意したのです。

明治6年(1873年)、政府拝借金による二本松製糸会社創立に、小野組代理人の佐野利八や実兄の梅原親固らと共に参画。城址での工場建設の監督者として尽力し完成。操業が開始されました。

同10年(1877年)、海外への生糸直販の利を知っていた翁は、まったくの英会話能力がないにもかかわらず、単身で渡米。ニューヨークに支店を開設し、大成功を収めました。

やまだ おさむ

山田 脩 (1841~1921)

製糸会社が解散するや、副社長であった翁は“年来の苦心の結果を放棄することは水泡に帰するもの”として、土地・建物一切を買い受け、同18年(1889年)に個人経営としては、わが国最初の器械製糸工場「双松館」を発足させました。

経営は順調で、その品質は評判を博しました。二本松製糸会社から双松館の創業と近代製糸工場への発展の足跡は、いずれも翁の経営方法の適切な処置と冷静な判断の結果であり、福島県製糸業に確固たる足場を築いた「製糸業の父」と言えます。

一方で、明治30年(1897年)、町民の切望のもと三代目二本松町長に就任し、3年間町政を担当し経済振興などに尽力しました。また県下中学校創立資金や町衛生費に対する寄付をはじめ、大正7年の本町大火では火災罹災救民救助として1千円もの援助金を投じています。

大正10年(1921年)5月24日、最も愛した寓居の洗心亭で唯一の楽しみである囲碁に興じたのち就寝し、そのまま帰らぬ人となりました。当時“八幡様か山田様”と称されたほど町民に尊敬され、また安部井磐根・梅原親固と共に「郷里の三尊」といわれたことは翁への何よりの感謝の表れです。



二本松ふるさと人物史
二本松市ウェブサイト

二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和4年1月~12月末・暫定値)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	不明等	合計	前年対比
侵入盗	1					1	-3
空き巣	1(1)					1(1)	-1
出店荒し	8	1		1		10	2
その他	6(1)	11		1		18(1)	-26
非侵入盗	1		1			2	-3
車上ねらい	16(2)	7	3	3		29(2)	13
その他	2	2				4	
自転車盗	12(1)			1(1)		13(2)	-3
器物損壊	2	1		1		4	3
住居侵入	13(1)	1	2	1	2	19(1)	-19
その他	62(6)	23	6	8(1)	2	101(7)	-37
合計							
前年対比	-9	-26	-4	2		-37	

※()は12月の発件数



地域で子供の見守りを!!
日常生活の中、気軽にできる
「ながら見守り」活動の
協力をお願いします。



STOP! なりすまし詐欺



地域安全ヤングボランティア「リバーパトロール」
なりすまし詐欺被害防止ポスターコンクール
審査優秀作品
安達高等学校3年 須藤鈴風さん

POLICEメールふしめ

- 犯罪発生情報・防犯情報
 - 交通安全情報
 - 警察からのお知らせ
- を警察から発信します。
まだ登録していない方は是非登録をお願いします。

登録専用アドレス(QRコード、または
mailto:pmf01@uh28.asp.cuenote.jp)
に空メールを送信してください。



二本松警察署電話 23-1212